様式２

令和6年度　調布市立北ノ台小学校　学校評価報告書（学校長　野口　直也）

学校の教育目標

◎思いやりのある子ども　　〇よく考える子ども　　〇明るく元気な子ども

目指す学校像（ビジョン）　例）学校像，教員像，児童・生徒像

目指す学校像　【子どもたち一人一人を大切にする学校】
（１）児童にとって　「よろこびのある毎日」
・友達と関わるよろこび　・学んで分かるよろこび　・自分の成長が実感できるよろこび　・自分の存在が認められるよろこび
（２）保護者，地域にとって　「安心して任せられるみんなの学校」
・開かれた学校　・安心できる学校　・私たちの学校（地域との協働、連携）
（３）教職員にとって「自己実現できる職場」
・風通しのよい明るい職場　・やりたいことができる職場　・成長できる職場

調布市立学校における共通した領域　＜短期的な経営目標＞

	1　豊かな心（徳）		2　確かな学力（知）		3　健やかな体（体）	
自己評価	（1）　具体的な取組	評価	（1）　具体的な取組	評価	（1）　具体的な取組	評価
	①主体的に考え，議論する道徳授業の実践をするとともに，いじめについて考える授業を全学級で各学期１回，年間で３回行う。	B	①週ごとの指導計画を作成，提出し，計画的に指導を行う。	A	①「自己指導能力」を身に付けさせるために，児童に自己選択，自己決定させる場を設ける。「みんなのきまり」は全教職員で共通理解を図り，挨拶や正しい言葉遣い等の習慣を身に付けさせる。	B
	②不登校児童の解消や新たな不登校を生まないために心の居場所づくりに努める。（児童の声にしっかり耳を傾ける。迅速で誠実な保護者対応をする。）	B	②児童が主体的に学習に取り組めるように見通しと振り返りを重視し，「主体的・対話的で深い学び」となるよう、積極的に対話を取り入れ授業の工夫改善を行う。	B	②食育を充実させるとともに，スポーツフェスティバル，長なわとび・単なわとび週間等を行うことで，児童の健康や運動への興味関心を高め，楽しさや喜びを味わえるようにする。	B
	③学級活動やたてわり班活動等の特別活動を通して，児童に豊かなコミュニケーション力を身に付けさせる。	B	③児童の学び合いを効果的に進めると共に，個に応じた学習活動を進めるために，一人１台モバイル端末の活用を含めて，ICT を効果的に学習に取り入れる。	A	③年間１０回の校内研究を通して，体育の授業で振り返りを重視することで児童が主体的に課題解決に取り組めるようにする。全員外遊びを実施することで運動の日常化を図る。	B
	(2)　成果（数値目標に対して）	評価	(2)　成果（数値目標に対して）	評価	(2)　成果（数値目標に対して）	評価
	①　児童アンケート「いじめをしないで仲良く」80%以上→94%，保護者アンケート「子供たちが安心して生活」80%以上→96%，職員評価「いじめ授業」80%以上→100%	A	①　児童アンケート「授業の内容が分かる」80%以上→92%，保護者アンケート「楽しく分かりやすい授業」80%以上→97%，職員評価「計画的な指導」80点以上→97%	A	①　児童アンケート「すすんで挨拶」80%以上→83%，保護者アンケート「すすんで挨拶」80%以上→87%，職員評価「みんなのきまり，挨拶，言葉遣い」80%以上→97%	B
	②　児童アンケート「先生に相談できる」80%以上→67%，保護者アンケート「子供たちが安心して生活」80％以上→96%，職員評価「不登校児童の実態把握」80%以上→97%	B	③　児童アンケート「すすんで学習している」80%以上→81%，「あきらめないで頑張る」80%以上→86%，職員評価「学習形態・活動の工夫」80%以上→94%	B	②　保護者アンケート「体力の向上や健康を保つための指導」80%以上→93%，職員評価「食育の充実」80%以上→90%，体力テスト T スコア 50 以上→T スコア 51	A
	③　児童アンケート「学校は楽しい」８０%以上→90%，保護者アンケート「家庭で学校や友達」80%以上→91%	A	④　教員評価「ICT 機器を活用した授業」80%以上→91%，「一人１台モバイルの積極的な活用」80%→79%	B	④　児童アンケート「すすんで運動」80%以上→84%，職員評価「ねらいを明確にした体育授業」「全員外遊びの実施」80%以上→93%，90%	B
学校関係者評価	・道徳で，中心となっている教員がいるので，どの学級の授業も板書などが工夫されていて素晴らしい。 ・図書教育に関して，ぜひ活性化してほしい。		・授業のねらいを明確にしているので，子供たちが分かりやすい。振り返りに関しては，時間によって省略されているケースが見受けられるので，工夫が必要。		・児童の下校時の交通マナーに不安を感じる。生活指導部で関わっていけるとよい。 ・なわとび週間や委員会活動の企画で鬼ごっこなど，積極的に運動できている。保護者への声かけも必要。	

学校の特色を生かした領域　＜短期的な経営目標＞

	4　保護者・地域との連携		5　ICT 機器を活用した授業改善	
自己評価	（1）　取組目標（具体的方策）	評価	（1）　取組目標（具体的方策）	評価
	①　HP を年間１50 回以上更新する。学校(学年)便りを定期的に発行する。	B	①　ICT の活用場面を増やすことで，日常的な授業力の向上を目指す。	A
	②　地域学校協働本部を生かして地域の教育力を活用する。	A	②「学び合い」、「個に応じた学習活動」を意識して一人１台モバイル端末を活用する。	B
	(2)　成果（数値目標に対して）	評価	(2)　成果（数値目標に対して）	評価
	①　教員自己評価「ＨＰ更新，学校(学年)便り発行」80%以上→60%	C	①　教員自己評価「ICT の活用による授業力の向上」80%以上→91%	A
	②　保護者アンケート「地域と協力した教育活動」80%以上→96%	A	②　教員自己評価「一人１台モバイル端末の積極的な活用」80%以上→79%	B
学校関係者評価	・災害時，避難所が開設された際に初動要員の動きや具体的な協力方法を市と学校，地域で共有できるようにしたい。 ・コミュニティ・スクールとして，さらに地域や保護者に協力してもらい環境整備が進められるようにしたい。 ・HP だけではなく，すぐーるなども活用して学校の情報発信を考えるとよい。		・子供たちは，タブレットを巧みに使いこなせている。一方で，教員間では得意な先生とそうではない先生のスキルに差があるように感じる。OJT を実施していることは評価できる。 ・子供たちに，タブレットを使用する際のマナーを今まで以上に教えていく必要がある。保護者の意識を高めることも大切。	

人材育成・組織運営

自己評価	〇授業力の向上　・主任教諭を中心としながら，OJT を積極的に進めることができた。また，自主勉協会も実施した。 〇校務分掌等の活性化　・校務分掌の枠組みの大幅な見直しを図り，公平化，効率化を進めている。来年度は４部会から５部会へ変更する。 〇服務規律の徹底　・引き続き服務事故を未然に防ぐための研修を複数回行い，服務規律の徹底を図っている。 〇ワーク・ライフバランスの推進　・何のための効率化なのか，生み出した時間を何に使うのか，一人一人の教職員が考えるようになってきた。
学校関係者評価	・教職員のチームワークのよさを感じる。学年間でも，活発に意見交換が進められている。部会のコミュニケーションも密で，みんな勉強熱心である。 ・以前と比べて通級の先生たちともつながりを感じるようになった。保護者の安心にもつながる。 ・若い先生たちも，先輩たちに支えられながら意欲的に仕事をしている様子が伝わってくる。

中期的な経営目標の達成状況

1　・知的固定級「たんぽぽ学級」開設と校内教育支援センター「ステップルーム」設置により，実践の中で特別支援教育のスキルアップを図ることができた。
2　・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善については，「主体性」を育むために自己調整学習を校内研究のテーマとして取り組み始めた。
3　・自己指導能力の育成に関して，「自己選択」「自己決定」「自己実現」をセットで具体的に捉えられるところまで浸透しつつある。
4　・地域素材を生かしながら地域学校協働本部を中心に地域人材の協力を得ることで来年度発足するコミュニティスクールの土台を作ることができた。
5　・一人１台タブレット端末の効果的な活用については，継続的に OJT を実施することで幅を広げることができた。
人・組　・授業力の向上のために，２学期以降，OJT を活性化することができた。

次年度の重点課題

〇コミュニティ・スクールとしての組織の充実　・特別支援教育の浸透　・図書教育の充実　・ステップルーム等の不登校対策　・校内研究，OJT の充実による授業力の向上と学力向上　・特別活動等によるコミュニケーション力の向上　・食育の充実